

管内町村会での統一した見解はないが、令和2年4月から、各種手数料等の見直しを進めて行く。

### 第5回

### まちづくり常任委員会

6月20日

▽JR北海道単独維持困難線区に対する地域支援について

今後、宗谷線を運行するための経費について名寄以北の市町村の自治体に負担額が示された。幌延町の負担額は2年間で86万1千円。名寄以北の市町村の負担額は。

③決定には至っておらず、各自治体の諸事情にもよるが、均等割、人口割、財政割などがある

④2年間限定なのは理解したが、3年目以降はあるのか。

⑤2年間限定ということで行っている。この2年の中で、アクションプランを作成し、これに基づく活性化を図っていく。

⑥今回他の自治体も経費を負担するということになるが、これからも経費負担をし続けるのか。

⑦この2年間限定で応援していかうということで、早く法律を改正してもらい、国の支援をいただきたいということ。

▽沿岸バス豊富幌延線単独運行路線化について

実施日は令和元年8月1日。

変更点は、沿岸バスから豊富留萌線と幌延留萌線を統合し、「豊富幌延線」を廃止したいとの提案があったことから、豊富町とも協議し、両町負担で単独運行路線化を検討している。



### 全道議員研修会開催

令和元年6月25日

令和元年度の全道町村議員研修会が札幌コンベンションセンターにて開催された。

この度の研修会は、まず「どうなる？今後の日本政治」と題して、政治評論家の有馬晴海氏が安倍総理一強時代の今後の政治情勢を解説された。

次に「地方は変わるのか、自治体はどう変わるか」と題して、中央大学名誉教授の佐々木信夫氏が、人口問題と地方自治体経営の方向性、地方議会のあり方などを統計や実例を示しながら講演した。

### 議員現地視察調査

令和元年6月26日

現在、町が試験栽培を進めているワイン用ブドウ栽培に関する調査を三笠市達布地区のTAKIZAWAワイナリーにて行った。

滝沢氏は50歳をすぎてか



らワイナリーの経営に挑戦し、現在、3ヘクタールの南斜面に3種類のワイン用ブドウ苗を約9千本栽培している。

ワイナリーではワイン熟成の様子を視察した。アメリカ産ワイン樽や酸味を生かすステンレス製樽を使用していた。

ブドウ畑では、栽培の基本的な知識や主な栽培アドバースを滝沢代表から伺った。

### 編集後記

早くも秋の便りが届く時節となりました。

街中の家庭菜園も収穫に忙しい事と想います。さて、町も今年は幌延町の今後10年間の基本構想や5年間の前期基本計画を作成するため、町の各関係機関より選任された26名の委員で構成する審議会が作られました。いわゆる「第6次幌延町総合計画」です。

これらに関する町民アンケート調査が行われましたが、皆様は回答されましたでしょうか。少しでも未来に夢の持てるまちづくりをしていきたいものです。

議会としても、皆様の意見や先進地を調査視察しながら、行政としっかりと議論を重ね、その後の実施計画に結びつけるため、議員全員で努力して参ります。

編集委員長 植村 敦  
副編集委員長 岡本 則夫  
編集委員 齋賀 弘孝

無量谷 隆